



# の み が わ

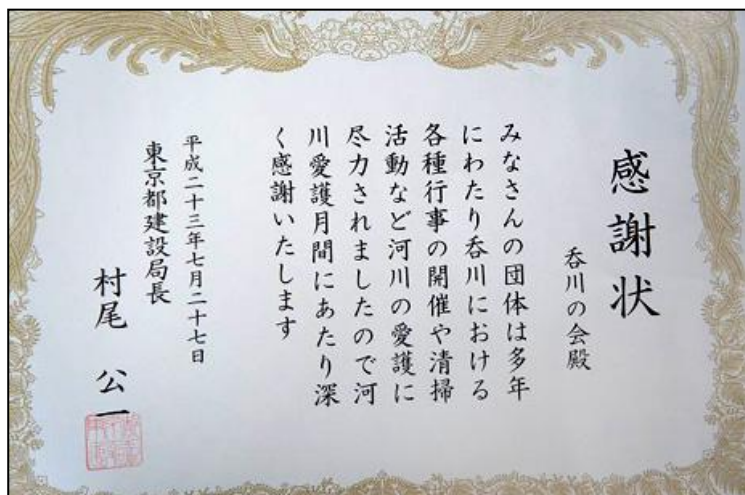
2011年9月15日発行（通算第62号）  
 連絡先 〒146-0085 大田区久が原 4-19-24  
 発行 大坪庄吾方 呑川の会  
 呑川の会 e-mail [s.ootubo@nifty.com](mailto:s.ootubo@nifty.com)  
 呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>  
 高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



## 呑川の会、 東京都河川優良ボランティア団体表彰を受ける

**\*\*1997年5月創立 14年の活動が評価を受ける\*\***  
 —— 2011/7/27 東京都民ホール ——

(大坪 庄吾 記)



7月27日、東京都河川局より上記の表彰を受けた。四時より表彰式があり、大坪代表が表彰状を受け取った。

呑川の会からは高橋・工藤・吉田・武富・菱沼・森愛・大坪の7人が参加した。表彰式のあと、芝浦工大の守田 優氏から「身近な川、都市の川-水循環と文化の場所」という講演があった。

続いて表彰を受けた五団体が、それぞれの活動を五分ずつ報告した。

呑川の会については、一九九七年からの活動の状況や現在の取り組みについて大坪が報告した。年間計画をたて、世話人会で調整しながら、環境の保全だけでなく、他の河川の見学など幅広い活動を続けてきたことや、呑川ネットの一員として他の団体とも交流してきたことなどを話した。

呑川についての会員各位の熱心な保存、活用の取り組みが今回の表彰につながったものと思われる。今後もその場を広げていきたい。

### (会費納入のお願い)

呑川の会の活動は、皆さんの年会費によって支えられています。

今回の会報に「郵便振替用紙」を同封しました。

(年会費:2000円)

(口座番号)00170-8-55114

(加入者名)呑川の会

郵便局にある「振り込み用紙」でも、「ゆうちょ銀行間振り込み」でも、ネットによる振り込みでも、やりやすい方法でお振り込みいただければと思います

**\*みんなで歩こう！ 恒例・秋の都市河川ウォーク\***

## 紅葉の妙正寺川ウォーキング

**\*\*神田川支流の一つ 大雨時対策多し\*\***

— 2011/11/12(土) 西武新宿線・鷺宮駅 10時 —

(白石 琇朗 記)

\* 集合日時:11月12日(土)10時 西武新宿線・鷺ノ宮駅

\* 解散:15時 西武新宿線・中井駅(又はJR・高田馬場駅) \* 会費:500円

\* 雨天時:午前中のみ雨、途中からの小雨は歩きます。(連絡:白石・090-6044-7275)

\* 散策順路:6キロ

鷺ノ宮駅 → 人道橋 → みはと公園 → 妙正寺川取水施設(環七通り) →  
平和の森公園(中野水再生センター放流口) → 江古田川合流点(江古田公園) → 下田橋 → 哲学堂公園(地下調節池取水口) → 妙正寺川公園(第二調節池) → 西落合公園 → 上高田公園(上高田調節池) → 落合公園(地下雨水貯留施設)・水車橋 → 中井駅



妙正寺川は杉並区の妙正寺池を水源として、西武新宿線に沿って中野区北部を蛇行しながら流れ、哲学堂公園の手前で江古田川と合流し、下落合駅付近で高田馬場分水路に流入して神田川に合流する約9.5キロの1級河川です。

上流部分の妙正寺池から鷺ノ宮駅迄(約2.4キロ)は今回歩かないが、妙正寺池を出てすぐの所に落合橋があり、昔ここで北から井草川が流れ落ち合っていた所で、下流部の神田川に落ち合う所にも「落合橋」があり、起点と終点が落合橋という特徴的な川です。

また善福寺川も南北に大きく蛇行を繰り返しながら流れていましたが、この川も同じで特に沼袋付近は、地名からしても湾曲部を表し、旧中野刑務所跡地に平成7年に竣工した比較的新しい中野水再生センターは、リン濃度を低く抑えた再生水を排水している。

江古田公園の手前に江古田川が流入し、その先で緑多い哲学堂公園(左岸)・妙正寺川公園(右岸)となる。ここからは大雨時対策の調節池(西落合公園・上高田公園の野球場・落合公園も)が続き見所です。

中井駅で解散しますが、中井駅の近くに500坪の林芙美子記念館があります。またこの先は街中であまり見所はありませんが、下落合駅の少し先の辰巳橋を過ぎた所で暗渠に入り、新目白通りの地下を流れて高田橋で神田川に合流しています。辰巳橋からすぐ南の神田川に出て高田馬場駅まで希望者には案内にします(2キロ延長)。



\*いよいよ実験開始！\*

## 呑川浄化実験装置見学会行われる

\*\* 西蒲田地域の悪臭解決を目指して \*\*

(菱沼 公平 記)

9月6日(火)10時より呑川浄化実験装置の現場見学会が行われた。大田区側からは藤澤係長以下2名、コンサルタントの(株)建設技術研究所、根岸技師長以下2名、呑川ネットからは奈須議員をはじめ9名が参加した。

装置は呑川の貧酸素水塊(溶存酸素の少ない水)を汲み上げ、酸素発生装置で発生させた高濃度酸素を、酸素溶解装置で酸素を溶け込ませ高濃度酸素水(最大で溶存酸素量30mg/l)を作り、これを川に放流する(約100m<sup>3</sup>/h)。放流口では上流・下流双方に流す。



7月半ばから実験を開始し、月1回データを採取し効果を計るようする。吐出中心、50m、100m地点の中心、右、左の3点を水深50cmで採取したもの。なお河床の汚泥も採取して分析する。

これに対し、呑川ネット側からは、もっと細かい地点での分析が必要とする意見が多くの人から出され、区側に強く要求した。同時に速やかなデータの公表を要望した。

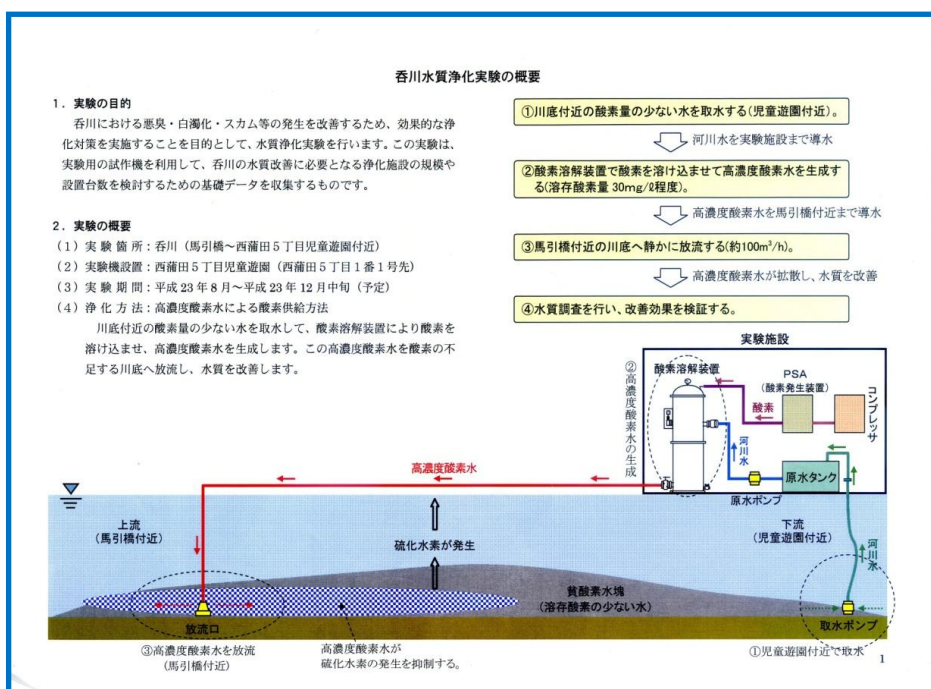
(株)建設技術研究所側の説明によると、ダム湖で使用したものを参考に作ったものとのこと。ここに引かれている電力で使用できる最大量での実験装置のため、実際に浄化を行うためにはこの何倍かの装置、あるいは同装置なら何台必要かも検討する必要がある。

周辺住民からは、この装置が稼働してからも以前となんら変わらないとの声も多くある中、早急な具体的データが必要になっている。

左の図は、当日区側から出された装置全体の説明図です。

PSAとは、P(圧力)、S(揺れる)、A(吸着)で、空気に圧力をかけ窒素を吸着させ酸素分を取りだす。常圧に戻せば窒素は吐き出される。複数の装置でこれを繰り返すことで酸素を連続して取り出すことが出来る装置です。

住民の切実な要求である臭気対策を今後もいろいろな方法を考えていく必要が有ります。



**仲之橋(久が原地域)架替工事スタート**  
～重要な避難通路上の橋・耐震を強化して、新しくなります～

**\*\* 平成 25 年 3 月完成予定 \*\***

(工藤 英明 記)



2011/9/9、呑川の会からは 高橋、折戸、工藤の3名が出席をして工事説明を受けました。

(工事関係者)

大田区都市基盤整備部建設工事課

担当係長:定本 健 氏

工事担当 堀井 徹志氏

リック・佐々木JV現場代理人 古川 旭 氏

(写真は現在の仲之橋)

(近隣説明会)半年前に完了し、既に着工中で、間もなく本格的に工事に着手する。

例のごとく、工事の安全対策や騒音対策が中心。

(工事の目的・理由など)

1. 現在、この橋は、40年以上前のもので、耐震性等に問題があるので架け替える。
2. 近くの「大森十中」が、災害避難場所に指定されており、早急に耐震性・強度が十分な橋に架け替える必要がある。

完成後の仲之橋は、20トン車大型車両交通に耐えられる強度となる。

- 1) 工事名称:仲の橋架替工事(建 - 32)
- 2) 工事場所:大田区久が原二丁目13番先 ~ 仲池上二丁目26番先(仲之橋)
- 3) 工事期間 H23年8月初旬 ~ H25年3月 (9:00 ~ 18:00)

呑川の会(主に高橋氏)要望事項

1. 現仲之橋(橋脚)下部には、「カワセミ」の巣が、ある可能性があるもので、慎重に工事を進めてほしい。

もし、発見された場合には、直に、連絡してほしい。また、写真撮影をしてほしい。

2. 左岸と右岸の橋脚部間の河床は、出来るだけ、自然河床を確保してほしい。

注)現計画では、コンクリート打設。結果、橋脚と一体化し、いわゆる「三面コンクリート」にする計画。

3. この仲之橋を中心に、この上流の道々橋ないし八幡橋から根方橋ないし池上橋の間は、特に生物が多く、トンボ、カモなどの鳥類、うなぎを含む魚類、も多く生息し、水草(藻類)も多い。

そのため、「カワセミ」が、生息し、頻繁に目撃される。

4. 橋欄干のデザインも、この「カワセミ」をモチーフにしたレリーフを採用するとか、工夫してほしい。

5. 橋の途中に、川を見物(観察)する、膨らみ(一種の歩道)を作ってほしい。

6. 現在現場事務所の敷地(資材置き場)も工事完成後、広場(公園?)として、仲之橋と一体的に考えて整備してほしい。

## 第3回 呑川シンポジウム

(呑川を軸に、豊かな生きものの生息する大田区を)

\*\*東京大学大学院 鷺谷いづみ教授を迎えて\*\*

2011/6/18 開催

(福井 甫 記)

呑川ネットでは呑川の現状・課題等を区民に広く、理解してもらおうべく、これまで2回シンポジウムを開催してきました。



第1回(2007年5月)

テーマ「悪臭・スカムのない呑川を目指して」  
基調講演 日本工学院専門学校 猪口真美先生

第2回(2009年6月)

テーマ「いきものの棲む水辺を創ろう」  
基調講演 東京海洋大学 丸山 隆 助教

そして第3回呑川シンポジウムとして、「呑川を一つの軸として大田区を水とみどりのネットワーク化し、豊かな生きものの生息する大田区を目指す」をテーマに 次の方々のご参加をえて実施することができました。

(基調講演) 鷺谷いづみ教授(東京大学大学院 農学生命科学研究科)

(報告) 大田区のみどりと水辺環境を育てる取組み  
まちづくり推進部まちづくり管理課大橋英一係長

(パネルディスカッション)

パネリスト

呑川の植物、生きものについて

呑川の会会員 高橋光夫さん

ユスリカを中心とする呑川の生きもの

日本工学院専門学校蒲田分校 環境・バイオ科 金田彰二先生

カモ類の分布から見た呑川の河川環境の特性

千葉大学園芸学部大学院修士 赤木光子さん

リトルターン・プロジェクトから見てきたもの

リトルターン・プロジェクト代表 増田直也さん

多摩川の自然

大田区嶺町小学校 牛島貞満先生

全体としての評価は会場の参加者が書いてくださった次のアンケートがよくまとめられていると思う。

- ・大変盛りだくさんな内容で、興味深く拝聴しました。
- ・三部構成で、どれも貴重なお話をうかがうことができました。地球規模のお話から身近な大田、呑川が同心円に重なり、現代社会問題のありかとその問題への対処という二つの視点を受け取ることができました。
- ・大変貴重な機会をありがとうございました。
- ・一つ一つをもっと掘り下げて(もう少し時間にゆとりを持って)お聴きしてみたいと思いました。

最後の1行にもあるように、大勢の参加者を期待するシンポジウム形式は今回にとどめて、次回は参加者を絞った勉強会形式の方がよいかもわからない。(福井 甫 9/3 記)

# 呑川をきれいにするための大田区意見交換会

「水質浄化実験装置」の状況など

(福井 甫 記)

2011/6/30 開催



奈須議員の提案により実施されることになった年2回の大田区との意見交換会も、この6月30日に第7回目を実施するまでになった。

今回呑川ネットから事前に、あらかじめ次の8項目について質問書を提出し、それに対し大田区から回答(斜体部分)があったので報告します。

1. 呑川的环境指標の22年度の実績値の報告  
数値 略
2. 現在測定中の硫化水素の測定結果の報告  
北の橋、大平橋、山野橋、馬引橋、宮之橋、の5地点で22/7/13~22/11/2の間 28日を1クルーとして4回腐食性ガスキットを吊るすことによる硫化水素の測定結果では大平橋が最大、北の橋が最小、時期的には7/13~8/10が高い
3. 臭気モニターによる臭気測定結果の活用と今後の取り組みの照会  
H22年度の情報提供は54件とH21年度の137件より減少した。しかし同じ人がどう感じるかが重要で現モニターには引き続きお願いしたい。
4. 生産緑地への区の今後の取り組みの照会  
生産緑地の廃止を前提に公共施設の整備計画をあらかじめ検討することは区としてはできない。  
生産緑地の指定解除の申し出の際、関係部署が協力して横断的に取り組んでいきたい
5. 呑川のサイン計画に河口からの距離と、標高の取り入れの要請  
今後、詳細設計を検討する中で、検討していきたい
6. 呑川のような流水域でのジェットストリーマーの効果について照会  
設置当初、設置個所後方で溶存酸素量の改善が確認されており、現在も同様の効果があると考え  
る。
7. 呑川の水質浄化実験施設に取り込まれる新研究内容の照会  
低い圧力で酸素を溶解をできるようにすることで、放流後に酸素が気泡となって放出される量が少なくなり、従来の高濃度酸素水より効率的になることを期待している
8. 悪臭発生の一つの原因である西蒲田地区の護岸露出部の清掃の要請  
10年以上前に悪臭対策として干潮時に犬走りや護岸を高圧洗浄したことはあるが、洗浄すると河川に泥混じりの洗浄水が流れ出すので、抜本的な改善にならず、現在は実施していない。

2007年、前々回の東京区議選のとき奥沢駅前街頭演説をしている世田谷区の上川あや候補(本年4月の区議選でも当選し現在3期目)から何気なく受け取ったちらしに「行政の職員以上に勉強を重ねて議論にのぞめば、成果は確実に現れます」とありました。実際そうなのでしょう。これは私たちにも同じことが言えるのではないですか。(福井 甫 9/3 記)

## 呑川の会・総会

**\*\*当面の活動と新役員体制決まる\*\***

———— 2011/6/25 開催 ————

(大坪 庄吾 記)



### (呑川の会総会報告)

6月25日(土)午後から蒲田小学校集会室にて2011年度の総会が行われた。

はじめに、福井代表より2010年度の活動報告が行われた。呑川河川環境改善のために行われた活動、大田区と協力して呑川ネットとともに行った活動、シンポジウム、小学校総合学習への援助、会としての2回のウォーキングなど多彩な活動をしてきたことを確認した。(詳細は省略)

### (2011年度の活動予定)

- ・大田区との意見交換会 6月30日
- ・呑川ネットの活動としてEポートによるゴミ拾い活動(12月3日)
- ・ウォーキング2回。明正寺川⇒11月12日(土) 石神井公園と三宝寺池⇒4月7日ほか
- ・呑川ネットとの活動に参加。
- ・学校から要請があれば協力。
- ・定例会 8月27日(土) 10月29日(土) 2月17日(金)、4月7日(土)、4月21日(土)、6月23日(土)は総会

### (代表・世話人)

代表 大坪庄吾 副代表 高橋光夫 白石琇郎  
事務局長 工藤英明 事務局 菱沼公平(呑川ネットも担当)  
会計 高橋光夫 会計監査 古海信雄  
世話人 福井 甫 小林賢司 島津良樹 武富正治 可児昭雄 榊原健夫  
世話人会は上記全員で構成する。  
ニュースは分担して編集する。

会計報告 監査報告 略

## 香川沿岸(工大橋～河口)の樹木

### —— 第12回 「さるすべり」 ——

(可児 昭雄 記)

花の少ない夏のシーズンに猛暑から台風のシーズンまで、鮮やかな紅紫色・白の花を咲き続ける花が、江戸時代に渡来した「さるすべり(百日紅)」である。この名の由来は、木の肌がすべすべして猿も滑って登れず、そして長い期間咲き続けることからとされている。



当初は寺社境内・庭園に多く見られたが、最近では街路樹・公園に利用されている。なお福島県・香川県では「なつつばき」、神奈川県箱根では「ひめしゃら」を「さるすべり」と呼んでいる。

香川沿岸では、上流「石川町二丁目第二三公園」、中流「池上橋」沿いに左岸、下流「夫婦橋公園」「藤兵橋堀児童公園」「桜梅公園」、白の花は道々橋そばの「樹林寺」に咲いている。

\*「さるすべり」ミソハギ科、  
中国原産

\*用途：細工物、ステッキ、床柱等

\*参考文献：  
「樹木図鑑」 日本文芸社  
「四季の花ごよみ」 講談社

\*写真：池上橋左岸新並木 (撮影 白石琇朗)

(「香川写真展」の準備を進めています)

まだ、詳細の確定はしていませんが、こんな計画を進めています。

～大田区の中心を流れる香川～ 「第1回 あなたの香川写真 大募集」

(主催) 香川ネット (共催) 大田区観光協会

(写真展開催時期) 2012年2月下旬～3月上旬

(写真の内容) 香川や香川周辺が写っている風景

(応募サイズ) 2L～A4

(作品の取り扱い) 返却はしない。場所を変えて巡回展示を行う予定。





## 呑川に合流する「流れ」考(2)

### —— 洗足流れ(池上用水) ——

(寄立美江子・白石琇朗 記)

新編武蔵国風土記稿によれば昔洗足池は、この洗足流れに沿って池上本門寺の山麓まで池中で大池だった。池上付近はその後次第に埋って平地のように成り水田となったが、大雨が降るとすぐ洪水となった。その洪水除けの堤を築きその傍らにあるため「堤傍」と呼ばれ、堤方村となった。



「昔の洗足流れ」は洗足池から流出して、途中で小池からの「小池流れ」、そのすぐ下流で「鴻巣流れ」と合流し、分水が雪ヶ谷村と道々橋村の2本あり悪水として石川流れに注いでいた。本流は本門寺山につながる台地沿いに流れ、本門寺霊山橋の脇の本成院・中動院の裏手で呑川と合流していた。「東京府志料」によれば、川幅 1.8m程の小川で、池上用水とも言った。

小池流れは、現在の池上1丁目にある小池から流出した水と沢水を集めて流れ、主として小池谷戸地域の灌漑用水として利用された。鴻巣流れは鴻巣坂が現在もあり、池上4-18付近の湧水を水源として池上4丁目公園の下を通り、池上3丁目公園を突っ切り、池上用水に合流していた。

洗足流れは呑川左岸の丘の下に沿って流れ、湧水を利用した野菜洗い場が随所にあり利用しやすい小川だった。この流れは池上村を中心に堤方・女塚の村まで恩恵を被った。現在の洗足流れは「本村橋」付近で呑川に合流しているが、昔の悪水ながれの分水の一つであった。

## 呑川ウナギの戦い

### —— カワウとの攻防 ——

(高橋 光夫 記)



呑川の「アユ」と「ウナギ」をもう一度確認したい・・・それが私の今夏の目標でした。しかし、なかなか見つけられず、それならばと「カワウのアユ猟」「カワウのウナギ猟」を追いかけようと方向転換しました。こうして呑川における「カワウ・ウォッチング」が始まりました。

そしてこの夏「仲之橋」付近でカワウがウナギを捕獲する場面に、やっと遭遇しました。



ウナギはカワウのクチバシにまとわりついたり、首を締めあげたり、呑み込まれた後もカワウのクチバシから逃げ出したり・・・と不屈に抗戦しました。

結局は呑み込まれてしまいましたが、その戦いはどちらも精力を使い果たすほどの激しいもので、圧倒されてしまいました。



私はウナギの「稚魚」は、大田区環境保全課の「呑川生きもの調査」に参加させていただいた時に確認しましたが、「成魚」を実際に見たのは初めてでした。

こうして呑川に成魚の「ウナギ」が棲んでいることが明確になったことはうれしいことでした。

(編集後記)

たくさんの会の行事が続きます。呑川シンポジウム・水質浄化装置見学会・大田区との意見交換会・仲之橋架替工事説明会・東京都表彰などと同時に、呑川の会定例会・呑川ネット定例会、そして会報の印刷・発送、秋には妙正寺川ウォーク・・・今まで二の足を踏んでいた方も、どうぞ参加してみませんか？行動をするのは楽しいですよ。(今回編集担当:高橋光夫)